



▲1回戦と同じく、真っ赤に染まったスタンドで応援する生徒たち

野球部員の南川亘輝君（3—6）は2回戦が始まって「1回戦は逆転サヨナラだったので、そのままの流れで勝ってほしい」と期待を込めた。選手たちに向けて「ここまで勝ってきたことを自信にして頑張ってください」とエールを送った。

本校OGの松澤明子さんは1回表を無失点で抑えたことについて「相手のネームバリューがすごいのでドキドキしている。無出塁で抑えることができてよかった」と話された。

チアリーダー代表の藤原穂香さん（2—4）は2回以降

1回

1・2回は両者とも失点を許さず、均衡する展開となった。しかし3回表、二死二塁でタイムリーヒットを打たれ、青森山田高校に先制を許してしまった。

松井拓真君（3—5）の母、雅子さんは全校応援について「とても感動する。前回よりも人が増えていると感じた」と述べられた。また選手に向けて「いつも通りプレーしながら勝てると思う。楽しく、そしてたくさん打って頑張ってほしい」とメッセージを送られた。

小学校のころ太田剛志君（3—6）と同じ野球チームに所属していた藤元拓磨君は0対0の展開について「均衡する戦いだと思っていた。前の試合もサヨナラで勝ってくれたので、今回も粘り強い野球で勝ってくれると思う」と話した。

応援団長の辻和彦君（3—6）の母、佳美さんは「全校応援はとてもありがたい。団結力があると感じた」と感想を寄せられた。また選手に向けて「今までの練習の成果を発揮して頑張ってください」とメッセージを送られた。

野球部の樋口仁君（3—4）は「まだまだ始まったばかり。選手たちは普段通りにしていると思う。これから自分たちの試合をして、点数を積み重ねていってほしい」と選手に向けてメッセージを送った。

山崎凛太郎君（3—3）の父、章基さんは「全校応援は威圧感があると思うから、一塁側から見たい」と微笑まれた。選手に向けて「これまで練習してきたことを発揮して、スタンドも一体となって頑張りたい」とメッセージを寄せられた。

野球部の西村圭輔君（2—5）は2回戦を迎えて「先輩がここまで連れてきてくれた。自分たちの力を発揮して頑張ってください」とエールを送った。また応援に対して「たくさんの方が応援に来ているので、野球部が中心となってアルプス全体を盛り上げられるようにしたい」と意気込んだ。

2回

野球部員の大西彩斗君（3—5）は「2回戦なので初戦よりは緊張しないと思う。いつも通りの試合をしてほしい」と笑顔で話した。

3回

野球部の樋口仁君（3—4）は「まだまだ始まったばかり。選手たちは普段通りにしていると思う。これから自分たちの試合をして、点数を積み重ねていってほしい」と選手に向けてメッセージを送った。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号